眞神曼荼羅

附 神社檜扇

しづや りふかふ

I

の一番に、太陽の下、彝玖邇（いくにのおう）之王の築きたまへし眞神（まがみ）の邦の御旗（王家である彝之（いの）家の旗でもある）を、炎の滾りのやう、フォルムなせる光燦なる輝きの如く翻へし、羽ばたくかのやう、まばゆくはためかせる者は二人の戦士。

各々が左右に一刀ずつ、すなはち左に神剣『直観』、右に神剣『客観』を佩く。火焔の如し。

一切の言辞、諸々の考概はそのいはれも由縁も知られざりき。只唯只管、無限の辣韭の如し。すなはち捏造なりとぞ裂ける。

ただ無明が生存へと傾けんと策謀す絡繰りなりけり。児戯ぞ。

聖の聖なるその剣は、あたへられしもの空架とぞ暴く。

方便に若かずとぞ。

さればこそ切り裂くその刃は「眞」を究むるのものなりけれ。両刀を以て、『究真の剣』といふはそのゆゑん也。

さなる二騎の聖闘士に向かひて、将なる人、神剣『睿智』を持つ彝之（いれつ）裂２５歳は左の如くに言へり、

「いよいよ、おまえらが魁（さきがけ）よ（いのりょう）」

二人のうちの一人、彝之龍肯２３歳は勲求め、清く潔くも勇みて一歩進み出づるなり。

その名に因むか、龍の如くに肯んずる魂を象徴す、龍爪の猛々しき槍をつかみ、八方睨んで覚知掌握する龍を浮き彫られし楯を身に寄せ、兜には彝之家の聖なる御徴を荘厳する。神彝而呬厨御の聖徴を浮き彫らせける神々しき左右の大剣を佩き、八紘遍照して燦へ燦めき耀けるはあたかも太陽の如し。

彝之龍肯といならぶ男は天平 龍 咒２３歳。

龍肯と同じく雄壮なる巨躯の龍馬に跨り、聖なる燦輝の鎧に神授の大剣を左右に佩き、天文遁甲の式盤を刻む楯を肩へかけし。

ちなみに、龍馬とは顔やら首やらが龍にて、鬣と尾と長く、麒麟にも似たるも、胴細くて、くねりくねりて、三本の爪を持ち、飛ぶやう速き神獣の眷属なり。

「いざっ！」

脛あても、拍車も、燦々威風堂々、燃ゆるかの如、颯爽と前へ出でて、剣の切ッ先のやう、裂くやうに、列の先頭をぞ両雄征く。

旗には、縦の亀裂を象徴するJの紋、神の〝痕跡〟也。眞神山の頂にありし大磐に、縦裂きに裂け入りてある亀裂『彝龍之裂』を起源といふも、諸説ありて、日の本へ渡り来る遙か以前、紀元の前８千年に及ぶといふ一書もまたあり。

さて、彼們の隊列を組みて、今、まさに道を外れ、昏く怖ろしげなる黒き森に入らんとする。

わずかにいにしへの忘れられたる古道あり。

元は、石の敷かれたる小径にあるらしも、毀たれ、雑草生ひ茂りて、節くれたる醜木の根に裂かれ、繁りたる蔦の絡みに絡みたる捻じくれが侵蝕し、キツネ一匹も通らるるか否や。あまりにも狭き哉。

聖闘士二人、最初はならびて入らんとするも、思ふやうならず、諦めて一列になり、繁茂する蒼古の枝を断ち攘ひつつ、推し進むなり。龍肯が先にて、次が龍咒なりけり。

嶮しく眼尻を上げ、張り、決して油断せじ。

襲ひ来る者們が山賊ならばまだましならずや、貪嗔痴のあからさまな形象なりしオークやらトロールやらゴブリンどもなど、醜怪なる妖鬼のいつ出ずるとも、知れず。

〆裂こそ〝安易に〟鼓舞すれ。

「怖れるな、心を解放せよ。あらゆる執著から。

心放たれ、安んじ、甚深思慮をせよ。自ずと答あり。逝くべし。

公然と果敢に。天をも裂き貫き徹す気勢を得て、仏に逢うては仏を殺すがごとく、義しいと想ったことを、只管為せ。

且つかろらかにかがやけよ。あそべ。心も體もともに健やかにあれ。

さらさらときよらに世を捨て、熱なき青き炎の燃ゆるがごとくに意気にあふれ、心を決し、無明なる混沌のような怒濤に竿を差して岸へ渡れ。すべては成就する。心の機らきを信じよ」

龍肯は、

「応よ、随神（惟神）に」

と応へ、

龍咒は、

「いざや、遅疑なし」

といふ。
「さあ、さらに行くがよい、二匹の龍馬とともに。
辣韮を辣韮と難じ蔑むも亦、辣韮の皮の一枚にあらば」
天なる武ともに、天なる智を併せ持つ高貴なる末裔、〆裂も手綱をにぎり、二人の後に続けり。

「では、僕らも行こうか」
さう言ひけるは、〆裂們三名の直後にありし天平普蕭（ふしょう）２５歳也。
叡知の人ぞ。
彼の跨る龍馬には、特別なる荷台あり。地図やら文献やら数多積まれたる。地理や天文の書籍なりけり。荷台に彫り込まれたる９頭のコブラこそ叡知の象徴なりけれ。
普蕭の業は指南なりき。
適切なる方途へ導き、目的とするを達すなりけり。
さらに彼の後ろには、普蕭を補佐せる天平 喬（あきと）２１歳、彝佐早蕨（いささわらび）２３歳あり。
両名とも、さまざまなる知識に通暁し、世にあふるる萬巻の書を渉猟し、剣楯などとともに、羅針盤やら測量機など持ちて、数学の書を携へけり。
彼ら二人ならびて進めるは、魁が啓きたる御蔭なりければなり。謝の念を抱き、さらに枝を掃ひて径を広げ、草を踏みて道を均すなりけり。
「それにしてもこんもりと生い繁った、鬱蒼とした森だ。蜘蛛の巣もある。風通しが悪いに違いない。
切り裂くのみとは言え、先を逝く者は本当に大変だな」
早蕨がさよう言へるに、喬も意を同じうし、
「そうですね」
されども、早蕨は異逆を言ひ、
「とは言え、喬よ。
我們は叡智の輩。無明の迷妄を捏造と非難するも、また言辞や考概による論考であるということを忘れてはならない。
古来云う、『裂くといへども、何をか裂くものかは。さればとて、裂かずともいへるかや。え答へず侍りつ。未遂不収のまゝ也』と」
ただ事実あり。
しかれば、細き雨の降り始むるなり。

さりとても、普蕭を始めとす知的作業のものどもは大いに無防備（つわもの）なり。
無空をいふとも、背後にて護衛する神将ありまほし。二人の 兵 ありき。
まずは炎春慶（ぼのしゅんけい）２５歳也。
彼、毅然と厳しき表情以て微動せず、燃ゆるやうなるまなざし持てり。
彼も亦、腰の左右に大剣を佩く。『妙義』と『素地土味』なり。
左の手には大きなる楯をぞ持つ。右の肩に大ぶりの弓を掛け、名に相応しく全身より発す

オーラはこれ炎なりけり。毅然たる正義貫ける妥協なきまなざしは凛々。
真理は只管死を畏れぬ勇によりて護らるるなり。真のしょうぎ（正義）のために死すは、いかほどか幸せたるを知る。
炎の隣を行くは白舟大樂２５歳。
彼の仕事は、行く先々の糧や物資を調することなり。
朗々と嘯く。
「伝統のある村々で、上質な布や、田舎でしか知られていない農家の隠れた逸品チーズや葡萄酒、豊かな実りのオリーブから搾った搾りたてのオイル、滅多にない岩塩や塩漬けの牛肉、豚の腸詰、海の市場で仕入れた黒胡椒など香辛料、それらを巧みに仕入れるのがおいらの仕事さ。
その外にも、武器の部品の保管や修理もこなすのさ。実用の工ばかりさ。この龍馬にも荷台があって、さまざまなものが載っている。動く蔵のようさ。
料理のための仕込みも、この龍馬の背の上で行う。
機械弄りは趣味同然だ。
バラしては油を差し、金ブラシで磨き、ウエスで拭き取り、ゲージで計る。
さらには、革製品の愛好家でもある。脂を入念に擦り込み、メンテナンスする。それは幸福そのものだ。
我ながら、さぞかし恵比寿様のような顔をしているだろうと思う、そういう時は。
そう思えば、この龍馬も、七福神の宝船に見えなくもない。
刀剣を研ぎ、拭き磨き、その刃の紋を恍惚と眺めるときも愉悦だ。
こんなに機材・食材など満載しても、龍馬は強い、強い。
なみの馬の十数倍の体力だ。馬十頭で運ぶような荷物も、軽々運び、しかも蹄ではないので、岩山の崖なども駈け上ることができるし、なおかつ、飛ぶように速い」
さやう得々と語りたるも、いざ昏き森に入らんとするに、
「ぅわ、ボノよ、ここ入るのか。しかもこの雨だぜ」
雨はといへば本降りとなりけり。
「ふ。つべこべ言うな、大樂よ。大した事ない。
すべては心々よ。おまえは名のとおり大樂を得て揚々とせよ。
さ、行くぞ。
案ずるな、道筋はできているではないか、先達の叡知によって」
「はいはい。
あゝ、そんな御託よりも、荷物に防水布を掛けなくっちゃ。生活が第一」
「確かに憂鬱な雨ではある。
いやいや、さっきより強まって来たな。これは激しくなるかもな」
「うんざりだね」と言ひてのち、後ろを振りかへり、「やあ、御嬢さん方、傘や雨具はお持ちかい？」
すなはち、後に続けるは、騎乗の女性（にょしやう）們なり。
「え？　あゝ、大丈夫、雨具はあるわ。

それよりか、ここ行くの？　入る？　マジで？　やだ。も、いや。
だって、気持ち悪いし、暗いし、木の枝に触れたら、埃で汚れそう。何言われたって、板は嫌。
毛虫がいそうだし。蜘蛛の巣だって」
天易（あまやす）ユリイカ１９歳のさやうにいふを聞くと、平衛（ひらえ）イユノ２１歳、
「行くしかないっしょー。
何、言ってんのよ、今さら。
他にどんな現実があるってのよ？」
「そりゃー、あたしだって、わかってるけどさ、言いたいのが人間じゃなくない？　それも妙義ってもんよ」
「言えてるー」
軽々しく軽薄に話せる少女們なるも、決して侮れぬ二人なるぞ。
アカデミアの学長にして、偉大なる法力の持ち主なるユリイカ、神イシュラルの生まれ変わりなるイユノ、最強戦士の〆裂にも劣らぬ強豪者たる二人なりけり。
「あーあ、やだやだ、ばっちいから、力使っちゃおーっと（笑）。叡知は実存するフォース（FORCE）なのよ。
妙義は現実を革めるわ」
ユリイカの咒を唱へつつ通らば、草木は無常を歎じ、自ずとこうべを垂れて退き、道はささささと広がりぬ。
「すべては心々とは言え、それは我が心が変ずるのか、諸物象が変ずるのか、胡蝶の夢のごとく定め難い。現実は鉄壁のごとく不動非情というけれども、時空でさえ伸び縮みするわ。
物的にね」
又イユノの通りたれば、草木自ずと恭順の意を示し、道広げたり。人ならぬ、神なる威光なりければ。
そはただささやうに見へるのみなりき。すなはち曰く、
「万能の者に違和はない。
異逆もすべて意中。神に叛らえる者はあり得ない。
神は無際限、途方もない自由よ。無に等しく、ただ現実のごとし。
万象もまた神、入我我入のごとく。完全無欠の円環。
だから、ぐるりぐるりと廻って、彝鵞羅婁（イシュラル）が、ただわたし独りのみなることも、又よし」

さて、その後に寄せたるは、五色の雲をたなびかせるかのごとく、壮麗絢爛たる豪奢なる大型馬車。黒き森へ侵入せり。
雨さらに強くなりつつあり。
交替して馭者席に坐し、４匹の龍馬を馭するは、鵞璃厭（いしだたみりおん）２５歳と彝佐玲央（れお）２２歳の二人也。
既に雨合羽に身を包める両人。

黙して手綱をにぎる璃厭、交替する刻に至るまでは、休憩す玲央。半ば居眠り。
現実を観つつも、二重露出のやう、アフリカの海岸に群れたる黄金の獅子をも夢見るなりき。

牽かるる馬車は美しくまばゆき王侯貴族仕様といふのみならず、機甲され装甲されしうへに、強靭なサスペンションの附くものなりき。
乗るは八人の女性。
冷淡にて知的なる天之韋眞子（あまのいさなこ）２３歳。美と微笑の彝佐いゐりや（彝邸璃亜）２１歳。炎えれいん（絵咽韻）２１歳は活き活きたる娘。おしとやかなるは天易ウイ（初）２１歳。内向的なりし平衛かのん（夏音）２１歳。呑気なる白舟（しらふね）くるみ（来瞳）２１歳。凛とし高貴なるは天平喩咽亜（ゆれあ）２０歳。人好きする可愛ひ娘、天平伊咽亜（いれあ）１７歳。
繚乱せし花々のやう。
世俗の生活力そのものなりけり。
８つの太陽、すなわち皆、女なり。
ロココ調の享樂のやう、豪奢な内装にて、クッキーをつまみつつ、かよう樂しげに談笑せり。
歓声は色彩豊かにて鮮やかなる、南の島の鸚鵡や天穹や植物や海や熱帯魚やサンゴのやうなりき。
華やかにて、囀る小鳥のやう、さざめく笑ひや会話の絶へるときなし。
森に入る刹那も、伊咽亜は、
「すごーい、お姉ちゃん、見てよ、葉っぱや枝が当たってる、カサカサって、音がしているよ」
「あ、顔出しちゃあ、だめ、あぶないから」
韋眞子が、
「じゃ、窓閉める？」
「え、でも面白いよ」
伊咽亜は甘へ拗ねるやう反駁。
見入りたるファッション雑誌より面を上げて、えれいんが、
「ねえ、そう言えば、昨日のＦＢ（***FaceBook***）見た？　インスタは？」
インスタとふは、インスタグラム（***Instagram***）なりけり。
「えー、まだあ。
何があったの？」
「超ヤバいんだけどー」
「何？　何？
じらさないで教えてよ！」
「かわいくない？」
「猫じゃん」
「トリノ？」
「サヴォイア王家の宮殿、凄いよね」

「やっぱチョコだよ、イタリアで最初なんだって、カカオ」
先頭を行く者們の不安やら緊張など、ここにては些少もなきなり。それあたかも時代の如し。
後ほど顕著なり。

とは言へども、馬車の後衛を担ふ二名においては例外なり。
騎乗にて装甲せる炎裂帛汰２１歳、甕　淋　太良２２歳の２騎は、律儀なりし性格ゆゑ、殺気漂はせる。
激しきを増す雨さへも、体熱によりて湯気に変ず。
裂帛汰は春慶の従弟なり。
「さて、裂帛汰、油断するなよ。彼女らは無防備だ。いくら機甲装甲した戦闘車輛なみの馬車とは言え、限界がある。
俺たちはそれを完璧に護るんだ」
「わかっています。炎家は武勇の誉れある実戦部隊です。ＤＮＡに刻まれています。遺漏などありません」
「*Talk is cheep!*（口先だけなら何とでも言える）、行動で証明するしかない。祷っても正義を為しても現実は〝平等〟だ。
心の弱い者はそれで挫ける。事象（行為の結果又は報い）に依存しない心の強い者はそれでも正義を維持する」
「古来言う、〝果敢せよ〟ってわけですね」
「そのとおりさ。たったそれぽっちのことさ。執著する莫れ。執著はただただ貪嗔痴を生むのみ」
「よく解っていますよ。何と言っても、幼少時から擦り込まれたことですから。納得という感情、もしくは心的な現象は起こしています。
聖なる磐にも彫られています。
〝すべては想い・価値（観）による配彩、象り、捏造（つくられたもの）。それは執著に因る。
欲望は対象を必須とし、対象は形態を必須とするがゆゑに。それゆゑに観を生む。すなわち色受想行識を生む。
執著なくばあるは無空のみ〟と」

さてさて、かやうなるめでたき話の後に至り来る紫摩黄金の炎のやう網目なす透かし文様に飾られ、聖句の螺鈿を象嵌する黒漆金砂蒔絵の龍車こそ本隊なれ。
といふても、大いに飲みて酔ひ、呆けたるさまなりき。嘲笑うべき体たらくなりけり。
まずは、手綱を引ける平衛隆臥２４歳。時折、葡萄酒の入りたる革袋の注ぎ口を、口に寄せ傾けるなり。
龍馬賢ければ、馭者など当てにせずとも、はぐれず進むなり。
すなはち、６匹の龍馬は先頭の龍馬の判断によりて適宜前を行く者を追ふ。あたかも自動

操舵とふに等し。
六人乗りに悠々と、天易真分（まことや）２５歳、同源叭羅蜜斗（どうげんばらみと）２５歳、天之哥舞伎（かぶき）２５歳が、半ば寝そべるかのやう坐すなりき。饗宴の古代ギリシア人の如し。
ウィザード・ハットに、繻子の儀装用ミリタリー・コート、破れしジーンズ、尖った鼻の片眼鏡、型崩れせし皺々なりし蛇皮のロング・ブーツ、長き顎鬚口髭頬髯を垂らせる真分は、
「雨だね。
ざあざあ降り。烈しい雨だよ」
雨滴の跳ねし音こそ音のすべてなれ。凄まじき連打。
花魁の着る金襴緞子を一九世紀のフランス人のやうガウンの如く羽織りたる哥舞伎のいふは、
「見ればわかるさ」
それを聞きて満足げに喉を鳴らすネコ科の生き物のやう、真分は眼を細め、
「そのとおり、まんま（真真、真の真）だ。
しかあれし（「かくのごとくあれ＝「神の御言葉のとおりあれ」の意）。
あゝ、どうかね。雨を眺めながら呑む。実にうまい。
風情があるねえ。
これが侘びしさというものだ。いやいや、しかしながら茶の世界で言う侘寂とは違う。あちらは冷えてる、凍えてる、寒い、といった黒塗りの沈黙の世界、甚深無尽蔵なる無味乾燥の世界。
小生が言うは、これ、単なるセンチメンタリズムだ。感傷だよ。旅人がアクロポリスでギリシアの雨に濡れるカリアティッド（女人像柱）を眺め、旅愁を感じるようなもの、平凡な感情だ。つまらん。くだらない。安価で買われ、使い古されて、缺毀した日用雑貨のようなものだ。
だがそれで良い。悪いものかは」
金髪にてスパイキー・ヘアなる叭羅蜜斗、これに異議をとなひ、
「へ、当ったりめえなこと、語ってんじゃねぇよ。当ったりめえってのァな、何言っているんだわかんねえんだぜ、へっ」
〝我が意を得たり〟と言はんばかりに真分は大いにうなずきて、
「さて、そこでだ、小生、敢えて言おう」
叭羅蜜斗がやんやと拍手し、
「出た、〝敢えて〟だ！　〝堂々果敢せよ〟だ、さあ、言え！」
哥舞伎はそを制すが如くに手を振りていふ、
「いいから、いいから、茶化すなよ、大事な眞神伝統の真理奥義だ！」
とて言ひ、かんらからからと大笑。
葡萄の房をつまみて、もごもぐす。いやはや。
真分は大袈裟さなるが如き身振りにて、大いに演技しつつ又謙遜もしつつ、
「いやいや、くだらないことだ、実にね。
さ、今日、この日の、この『結集』、諸君らはいかが思われるか」
「別に」

「さあな、興味もない」
「さよう、まさに一つの曼荼羅だ。
数千兆光年をも超える一切次元の全平行宇宙をも超えてすべて含める一切世界の大曼荼羅、眞神の究竟超越真義曼荼羅だ」
「さよう、さよう」
叭羅蜜斗がロバの如く真兮の口調を真似るなり。言ひてみずから独り爆笑。真兮とても、うんうんとぞうなずける。さても言の葉を続け、
「よって今日、この日の小生らは、あたかも大曼荼羅であり、大真義が秘められているのだ。
机上の空論ならざるこの現実が、まさに今あるこの状況・状態が、真の曼荼羅！　大曼荼羅！　万歳万歳万々歳！」
叭羅蜜斗も盞を上げてとなふ、
「じゃ、かんぺいだあ、かんぱーい」
哥舞伎は、
「ちあーっず！　ざなぁす！」
輝かしき杯を掲げては、真兮朗々と説法し、
「さあ、心かろらかにきよらさやかに歓ぼう、楽しもう。
健やかこそ大事。
健やかこそ永劫究極の真義、究竟畢竟の正義だ。
平穏こそ人々の希うところ。
鑑みよ。
心強く勢いあるときには、困苦も危険も、火に油の如く意気を昂ぶらせるであろう。
しかし、追い込まれたとき、挫けたとき、病に斃れたとき、心情又は躰躬が苦しむときは精神も衰え、気折れもするだろう。
又苦も極まれば、思考も言葉も整う余力もなく、ただ力みもがき悶絶し、安らぎをこそ欣求するであろう。
これを誰が責められるだろうか。何人にも責める資格はない。
勝てないのだ。尊厳を保てないのだ。人事を尽くせば、あとは手を合わせ、神に祈るしかない。
人為や人知の限りを尽くしても、どんなに努力しても、必ずや遺漏があるからだ。及ばないからだ。
神に祈る。すべてのささやかに生きる者たち、小さくて弱い者たち、儚き哀れな存在である我らは。
肉の痛みは超え難し。
心の痛みは、我がための痛みならば、幾らか道はある。
その智慧は古来云う、無執著だ。
非難されまいと思うな。心を護ろうとするな。捨てよ。さすれば心は苦しまない。気が附くと何度も心の内で言訳を繰り返し考えているような、心身の辛労もない。責められまいとするな。責められよ、なじられよ。
ただし、必ずや正しいことを為せ」

「確かに、最低限、自分のやっていることが自分で、心から素直に正しいと思えることが大事だな。
だって、自分が悪いなら、責められることを避けないようにすることも、開き直りでしかないからな」
叭羅蜜斗、さやう言ひても、心あらずかの如、哄笑す。又とてもかくても候とぞいふ。

さて、彼らの馬車の後に、この冒険の客分として、眞神郡以外の村より、眞神郡と隣接す神栖檜偏村の有志們、招かれ参加せる。
その名を上げ連ねれば、濛雨土砂降２３歳。霧雨蕭々太２５歳。驟雨龍仁次２５歳。霖秋夢弓月２４歳。伊叡敝黙斗２２歳なり。
大きなる唐傘の下、土砂降りの雨にも濡れずに、一人ひとり、豪華なる装備の龍馬に乗りて、その待遇、決しておろそかならず。
騎上も就寝に能う装備及び広きもの。贅なりてファースト・クラスともいふべき。
「今日は大人しいな、借りて来た猫だ」
「それもまたよし。今日は賓客だからな」
「さても奇特な」
「我が邦は古来、眞神の文化文明を吸収してきた」
「しかも、いち早く大和朝廷側に附いてしまった」
「未だ悔悟するか」
「特にお主の家柄は早く朝廷側に附いたからな」
「今更それを言うか」
「歴史の累積が我らだからな。地層のようなものだ。脳幹には爬虫類の脳もある。知性は古代からの経験の累積なのだ。知には本質性はなく、ただ経験による擦り込みに過ぎないとも言える」
相も変らぬ歴史問答。愚痴も又よし。是非なし。

さて次は、いよいよ最後尾に近き者ども。
騎乗する彝之豪毅１７歳。天平理人１７歳。白舟是收１７歳。天之清覚１７歳。
まだ若くして、華やぎつも、緊たる面持ちあり。のみならず、後陣薄ければ、先頭同様の懼れも甦るなり。
背後より襲わるれば、その危機、魁の危うさにも劣らず。
背に眼あらず。後ろを向きつつ進むはかなはじ。
こは、進む者們、止むを得ずまへを見るゆゑん。
最後尾に列せる壁のやうなる男們のみ頼りなり。

さてその男們とは、殿なる甍　周平敢太２２歳。空鼓斗乎瑠２２歳。
二人とも筋骨隆々たる巨漢なり。

まさに背後の守り、鉄壁なるなり。
こなる二人が街道を逸れ、繁茂する草薮雑木林、道なき黒き森に入るころ、先の龍肯と龍咒とは、土砂降りの中、枝を切り、草を払ひ、粛々進むなりけり。時は差異也。

戻れ、刃の尖のやうなる魁、突き裂き啓く龍肯と龍咒。ずゐずゐと逝く。
やがて大木の楠を迂回し、気味の悪き廃屋を過り、洞窟のやうなる岩間を抜け、土から出でたる木の根を階（きざはし）代わりにし、小さき崖を上るなり。いざ見渡す。
路に迷ひけり。

普蕭と早蕨と雩は、岩と岩の間に成りたる短き洞窟を抜け、崖を登り始める。道迷ひたるといふ情報聞きて、ランタンの灯りをともし、地理の図にて確かむるなり。

後続の春慶と大樂は、
「やあやあ、これは見事な岩だ。互いに支え合うように寄り掛かっていて、洞をなしている。真っ暗だな。いや、大神威、大霊威、大々威厳だ。
黙して語らず、存在を示すのみ。永劫の真理だ」

廃屋を後にせしイユノとユリイカは、枝や草のさえぎるために、聳える大岩未だ見えず。
やがて腐りて毀たれたる空き家を過ぎる。
八人乗りの馬車、唐突に半径５ｍほどな草の生いざる空間に出でてけり。そにあるは崩れかたちとどめぬ哀れ小さき廃屋。
あたかも叫び途絶し、まゝ止まりしかの髑髏のやう見へり。
思はず、
「やだあ、こわい」
「怨霊っぽい…」
「ヤバい」
「気持ち悪いね」
「何か人殺しとかあった感じするよね」
「夜になると出るのかしら」
「やめてよ！」
「でもいつか死ぬのよ」
韋眞奈子、いみじくも言へり。
少女們、いとどあられもなく嬌笑す。曼珠沙華の如、曼荼羅の如。

追ひ附きたる輝かしき装甲にて騎乗なる裂帛汰、淋太良は、

「うわ、これって」
「何だろう、忽然と現れたブラック・ホールみたいな廃屋だ」

さて、背後なる隆臥ら、まだいずれも見えぬうちより、前かたの騒ぎを聞きて、いと好奇を駈られけり。
「何だ、何だ」
「いったい、どういうことだ？」
「いや、朽ちた小屋があるらしい」
「それだけのことか」
「そんなもんさ」
「そのとおり。
じゃ、虚儚（こぼう）にかんぱーい！」
「そー、そー、〝きよらさやか〟に乾杯」
「清酒は澄んでいるし」
「透明だ、実物よりもはっきりしてる、４Ｋの撮影みたいだ」
「自然法爾だな」
「もっとシャンパーニュを！」
「備前のぐい飲みの、ヘラの跡がくっきり見える。高台は釉の塗りがなく、土味を楽しめる」
「数寄者にしかわからない」
「要は、なじみだから。泥んだ結果だ。本質性はない」
「『諦める』とは『明らめる』だからな」
「死を泥ませれば自ずと心の機（はたら）きによって執著も落ちる」
「寂滅為樂か」
「生滅滅已だ」
「諸行無常、諸法無我を得て不死を得るのではない。死に泥めば、自ずから心の贅肉は剥落する」

さて、さような論議の為さるるも知らず、迂回せし巨魁なりし楠を振り返りつ、神栖檜偏村の土砂降、蕭々太、龍仁次、秋夢弓月、黙斗們は、
「まるで空を蔽うかのようだった」
「でも、隙間から空が見えていたよ。そこに何か解放感を感じた。哀しい解放の感覚を。優しく切ないピアノの調べのようだった」
「いや、むしろ、上に向かって手を広げているんだよ。
天を仰ぐように。だって、命は未来だから。命あるものは希うから」

理人、是收、清覚、豪毅の１７歳組四人、将に楠を迂回する刹那にありしかば、

「神々しいね。神寂だ」
「ほんと、御神木的な存在だね。しかし、なぜなんだろう」
「理由なんてないさ。けど、神木ではないのだろーな。しめ縄もないし。それゆゑ崇高なのかも」
「人に認められる機会なんかあるのかな。むろん、ないよな。ふしぎでも何でもないのに、まったく以てふしぎだねー。この老大樹は誰にも見られなくとも、こうして毅然と神威を漂わせて存在するんだね」
「誰にも知ってもらえないのにね」
さやう言ひ連ねては過ぎぬ。

周平敢太と斗乎瑠、未だ大樹を見ず。
最後尾の役得ぞ、草や枝も薙ぎ倒され、刈り払われ、樂なり。烈しき雨をば除けば。
「平和だ」
「それが一番だ。この大地に永遠の平和を。少し眠くなってきたな」
「おいおい、オークに襲われるぜ。そうでなくとも、木にぶつかるぜ。気を抜けば、当たり前なことであっても、危機になる。余り緊張ばかりも、病気になる」
「あゝ、わかってるさ。わかってるよ。わーった、わぁった」
言つつ斗乎瑠は重たき鞘で、分厚き脛当てをぞバン！と叩けり。
「早く戦いたいものさ。
何も想わない。戦いたい。それしかない。想っても仕方ないからな。想ったって腹も膨れないし、疲れもとれないし、水も飲めなきゃ、小便も垂らせない。
水を飲むにゃ汲まなきゃならないし、小便垂らすにゃ放尿せにゃならない。
刃と刃がぶつかる無機質な、不協和で耳障りな金属の音が聞きたい」

先頭の龍肯と龍咒、普蕭們の指示によりて、東へ。
山を登りし。樵道さへなし。登り終へ、眼も眩むやう峡谷へと下り逝けり。
「逝けるのか？」
「渓谷の向こう岸が地殻変動による断層の絶壁になっているが、沢が絶壁を縦亀裂していて、そこから登れるようだ」
「沢登りか。危険だな」
「それもあるけど、深くて、川幅も広い。乗り捨てでいいから、筏が必要だね」
「じゃ、予定より早いが、野宿を始めよう。この雨じゃ、川も沢も無理だ。まだ少しでも明るさのあるうちに、筏作りをしようか」

さて、一同、色鮮やなるタープ張りつ、石にて囲ひしいにしへの趣なすかまど作り、料理始まりき。
雨ぞ瀧のやう、布を打ち叩ける。

真兮ら四人、馬車を降り、燃ゆる薪を囲みて飲み続けり。大樂が塩漬けたる肉を炙り、脂を滴らせけり。

「凄い、こりゃあ、うまそうだ、旨みたっぷり滋味豊か、英気を養う滋養強壮」

「快樂、快樂、笑いが止まらん」

「祝 Novel No.99!! わおっ！」

「奇しき琥珀色、ケンタッキー・ストレート・バーボンに乾杯！」

１６オンス・デニムを使ひしジーンズの、鋲を打ちて強化されけるポケットより、ブルースハープをぞ出だし吹くなり。スライドや、強く吹きつ又吸ひつするベンディングなど、金属リードの震への即物的なる歪み、けただましき金属の音をぞ做す。

「それ、何ていう曲だ？」

叭羅蜜斗の問ひに、真兮応へて曰く、

「『蟻腰の見掛』さ。偉大なる飛瀧神社や大神神社のことさ」

彼們四人と、大樂以外は土砂降りしさなか、木伐り、蔦よじり合はせて、到彼岸の筏を作り始めし。

又別の者們、女性用寝床をぞ作りける。女性們、タープの下にて待つ。大樂、晩餐の支度を始む。炊煙、善きかほり哉。

却説、作業一切を了し、一同焚火を囲めり。

三十七名、全員思ひ思ひに三重の円陣組むかのやう坐し、肉喰らひ、語らひ、笑ひ、飲み物飲みけり。

日暮れ果て、闇、雨音のみ烈し。

火炎を見つむるに瞑想のここちに入れり。

彼們なす円環曼荼羅の配置を説く。

一、円真に、天易真兮。彝之〆裂。同源叭羅蜜斗。天之哥舞伎。天平普蕭。

眞神の邦のまなかなす、五柱とも言ふべき彼們哉。

二、小円なす、天之韋眞子。彝佐いゐりや。炎えれいん。天易ウイ。平衛かのん。白舟くるみ。平衛イユノ。天平喩呬亜。天易ユリイカ。天平伊呬亜。

三、大円なす、炎春慶。白舟大樂。霧雨蕭々太。甃璃厭。驟雨龍仁次。平衛隆臥。霖秋夢弓月。彝之龍肯。彝佐早蕨。天平龍咒。濛雨土砂降。彝佐玲央。甃周平敢太。空鼓斗乎瑠。甃淋太良。伊叡敝黙斗。天平罟。炎裂帛汰。天平理人。白舟是收。天之清覚。彝之豪毅。

正に三重の大団円なり。

眞神邦の大曼荼羅附神栖檜傴といふ。

これぞ眞神の大真究竟奥々義。

萬民永く萬世に語り伝ふべき哉。

げに天晴れならずや、この佳き日。

きよらさやか、幸ひなり。

いやさか。

さても、めでたし、めでたし。

参考１　隊列の順

彝之龍肯２３歳。天平龍児２３歳。

彝之〆裂２５歳。

天平普蕭２５歳。天平罟２１歳。彝佐早蕨２３歳。

炎春慶２５歳。白舟大樂２５歳。

天易ユリイカ１９歳。平衛イユノ２１歳。

甃璃厭２５歳。彝佐玲央２２歳。

天之韋眞子２３歳。彝佐いゐりや（彝貶璃亜）２１歳。炎えれいん（絵呬韻）２１歳。

天易ウイ（初）２１歳。平衛かのん（夏音）２１歳。白舟くるみ（来瞳）２１歳。

天平喩呬亜２０歳。天平伊呬亜１７歳。

炎裂帛汰２１歳。甃淋太良（ながあめたろう）２２歳。

平衛隆臥２４歳。天易真兮２５歳。同源叭羅蜜斗２５歳。天之哥舞伎２５歳。

濛雨土砂降２３歳。霧雨蕭々太２５歳。騶雨龍仁次２５歳。霖秋夢弓月２４歳。伊釵敝

黙斗２２歳。：（神栖檜偏村）

天平理人１７歳。白舟是收１７歳。天之清覚１７歳。彝之豪毅１７歳。

甃周平敢太２２歳。空鼓斗乎瑠２２歳。

参考２　年齢の順

彝之〆裂２５歳。天易真兮２５歳。同源叭羅蜜斗２５歳。天之哥舞伎２５歳。炎春慶２５歳。白舟大樂２５歳。天平普蕭２５歳。霧雨蕭々太２５歳（神栖檜偏村）。甃璃厭２５歳。

騶雨龍仁次２５歳。

平衛隆臥２４歳。霖秋夢弓月２４歳。

彝之龍肯２３歳。彝佐早蕨２３歳。天平龍児２３歳。天之韋眞子２３歳。濛雨土砂降２３歳。

彝佐玲央２２歳。甃周平敢太２２歳。空鼓斗乎瑠２２歳。甃淋太良（ながあめたろう）２２歳。伊釵敝黙斗２２歳。

天平罟２１歳。彝佐いゐりや（彝貶璃亜）２１歳。炎えれいん（絵呬韻）２１歳。天易ウイ（初）２１歳。平衛かのん（夏音）２１歳。白舟くるみ（来瞳）２１歳。炎裂帛汰２１歳。平衛イユノ２１歳。

天平喩呬亜２０歳。

天易ユリイカ１９歳。

天平伊呬亜１７歳。天平理人１７歳。白舟是收１７歳。天之清覚１７歳。彝之豪毅１７歳。